

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地 (電話番号)	三重県松阪市射和町644-2 (電話)0598-60-1510		
評価機関名	三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 20 年 1 月 23 日(水)		

## 【情報提供票より】(H20年1月7日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人、非常勤 2 人、常勤換算 9.6 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	(有) 300,000 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円 )	有りの場合 償却の有無	有 / 無
	無		
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,500 円		

## (4)利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護 1	2 名	要介護 2		名	
要介護 3	1 名	要介護 4		2 名	
要介護 5	4 名	要支援 2		名	
年齢	平均 86.7 歳	最低 78 歳	最高 99 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	中村内科循環器科		
---------	----------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の南西部に位置し、事業所は町の中心部の近くにあり、小高い山々も眺められる静かで自然に囲まれ小学校、寺院も多くある中に、敷地の広い明るい色調の平屋の事業所である。玄関は解放され、室内はバリアフリーで、床はクッションプロアー敷きになっている。玄関からすぐ居間に通じ、利用者はゆったりと思いの時間を過ごしている姿がみられ和やかな雰囲気が感じられる。当事業所には、要介護度の高い(4~5度)利用者が約60%以上を占めているが、利用者の自立歩行の支援を促し現状の身体機能維持に努めている。このことは代表者、管理者はじめ職員の熱意と思いやりと努力で、方針が継続されていると思われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  前回の改善点は、「運営理念の啓発、市町とのかかわり」は代表者、管理者、職員との話合いでとり組まれていた。「継続的な研修の受講」は事業所設立以後職員の異動が多くあり、今後の課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  自己評価は、全職員が、日々の介護の取り組みを振り返る機会として、それぞれ記入し管理者がまとめた。管理者はじめ職員の介護ケアに対する意欲を感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  運営推進会議は本年6月に開催、概ね2ヶ月に1回開催されている。メンバーは、利用者、家族、地域自治会長(2地区)、民生委員、地域包括支援センター職員、代表者、管理者が出席し、事業所の現状報告、地域密着型サービスの資料提供がされ、会議の記録もされていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  利用者の状況は毎月書類を送付している。意見、苦情については、家族の来訪時に職員から話しかけるように努めて、家族の気持ちを汲み取るように心掛けている。出された意見は、会議等で話し合いケアサービスの向上に努めている。苦情相談窓口は重要事項説明書に明記されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  利用者からは地域の行事(敬老会、小学校の行事)の参加希望がない。地域の文化祭には、利用者の手芸作品を展出している。また、職員が地域の行事に参加しリズム体操等を紹介している。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の基本理念は、「家庭的な温かな雰囲気、生きがい自立、人間としての尊厳、安全な生活、ふれあい」を踏まえて職員と話し合い介護の実践をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は額に入れ居間に掲示されていた。職員の異動が多くあったが、現在は落ち着いており、日常の介護の実践においての振り返りがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初から地域自治会に加入し、代表者が総会に出席事業所の啓発に努めている。利用者は行事(敬老会、小学校行事)等の参加は望まない。職員が参加しリズム体操を紹介している。文化祭には利用者の手芸作品を展出している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々の介護の取り組みを振り返る機会として、職員一人ひとり記入し、その後管理者がまとめた。外部評価はグループホーム会議で改善に向けて話し合い日々の介護の実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、本年6月に開催、概ね2ヶ月に1回開催されている。メンバーは利用者、家族、自治会長(2地区)、民生委員、地域包括センター職員、代表者、管理者が出席し、事業所の現状報告、地域密着型サービスの資料提供をされ、会議の記録もされている。	○	運営推進会議の開催については積極的に取り組まれ地域との連携を図りつつある。今後も運営推進会議を定期的に開催され、地域密着型サービスの向上に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は介護保険申請の代行等の業務を通じて市に出向き、事業所の実情を伝えている。包括支援センターとの連携にも努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、月1回利用者一人ひとりの療養記録のコピーを送付している。状態の変化があれば随時電話連絡をしている。金銭管理は利用者一人ひとりの現金出納帳があり、入金時に家族が確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは来訪時によく話しかけるように努め、家族の意向を汲み取るようにしている。苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記しており、家族からの意見等があつた時は会議で話し合い、ケアサービスに繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設当初は職員の異動が多々あったが、現在は安定しつつある。利用者への影響を配慮し、馴染みの職員は常に1人はいるようにしている。調査当日も新任の職員が1人出勤されていた。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回のグループホーム会議で日々の介護実践の研修を実施しているが、職員個人の段階に応じた研修はされていない。	○	事業所として今後は、採用時、経験年数等の段階的な研修の機会を計画されることが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者、管理者は、県、市が主催の会議等に参加し情報交換はしている。市内の同業者との交流の機会は持っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者、家族には、事業所に何度か来訪してもらい事業所の雰囲気に馴染んでもらう。入院中の利用希望者には職員が、病院に出かけ利用希望者の意向や情報を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と信頼関係を保ちながら、食事の盛り付け、後片付け、歌を歌ったり、お口の体操等と一緒にやりながら支え合っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活のなかで利用者一人ひとりの意向、希望の表出は低下しつつあるが、利用者の意向に沿うように努めている。(お盆、正月は帰宅をすすめるようしているが、利用者は希望しない等)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族等の意見、意向は把握されグループホーム会議で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを実施してグループホーム会議で検討し、見直をしている。利用者の状態に応じて隨時、話し合い見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関受診、併設のデイサービスでの交流等に職員が一緒に出かける支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総合病院、主治医に定期的に受診している利用者があり事業所との連携はよい。また、協力医療機関とも常に連絡は取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の意向を重視しながら、今後の終末期ケアについては家族、事業所、協力医等と方針を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりにあった排泄、入浴介助等の声かけには配慮している。職員は書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりの気持ち、体調を尊重している。去る1月6日には利用者の希望により弁当持参で神社へ初詣に出かけた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を要する利用者が3名、他の利用者は自己摂取されていたが、皆食欲があり食べる事が楽しみになっている。食事の盛り付け、後片付けは2名の利用者が手伝っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回は入浴してもらうよう支援している。利用者は入浴が、気持ちよいと言っている。車椅子の利用者は、併設のデイサービスで入浴をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、好きな事を見出し、食事盛り付け、後片付け、散歩、新聞を読む、テレビを見る(利用者の中には政治番組を好む)等、楽しみであり役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、利用者の体調に応じて近くの寺院まで出かける。併設のデイサービスの行事にも参加することがある。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており、居室と共に施錠されていない。玄関は夜間施錠している。		
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回本年は6・11月に消防署の指導で事業所の防災、避難訓練を実施した。災害時の地域住民への協力は得られていない。	○	今後は運営推進会議等を活用し、自治会へ災害時の地域住民の協力が得られるような検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食、夕食は事業所で献立をたて調理しているが、昼食はデイサービスと同一献立で、栄養のバランスを考慮し栄養摂取量は1日1600カロリーなっている。食事も刻み食、とろみ食等一人ひとりにあった支援がされていた。各自の食事摂取量、水分摂取量もカルテに記録されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の下駄箱の上に手芸の作品が飾られていた。居間、食堂には、イベントの写真が貼ってあり、一角にはソファーが置かれ利用者が寝転んでみえた。利用者一人ひとり思い思いにくつろぎ、居心地よく過せるようになっていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベット、収納戸棚は設置。利用者によってソファー・小テーブルが置かれるなど、落ち着いて過せるようになっていた。		